



のブリッジ余談 (第 57 回)

ビッドの時からハンドを具体的にイメージする

ビッドで絵札点は何点あるからという考え方は卒業しなさいとしょっちゅう言っていますが、じゃあ代わりにどうすればよいのかということになります。私はそれには具体的なハンドをイメージしなさいと言っています。具体的なハンドで示しましょう：

♠ A8 ♥ KQJ103 ♦ 10 ♣ AJ865

と持っていて、パートナーは1Dとオープンしました。1Hとレスポンスすると、パートナーは2Cとリビッドしました。強いので(14点ありますからゲームは確実そうです)だから4th スートの2Sをビッドしてみます。これはオープナーのハンドをもっと詳しく知りたいからです。すると2NTと帰ってきます。これからは大事なところですが、実際のハンドをイメージしてきましょう。まず自分にとってもっとも都合のよいハンドともっとも都合の悪いハンドを想像しましょう。

まずもっとも都合のよいのは

a) ♠ Kx ♥ Ax ♦ Axxxx ♣ KQxx

でしょうし、都合の悪いのは

b) ♠ Q10x ♥ x ♦ KQJxx ♣ KQxx

くらいでしょう。a)なら7Cができそうです。b)なら3NT止まりです。これもさらに探りを入れていって、どこに行くのか決めねばなりません。a)の場合は4th スートを使った後に3Cと言って、様子を見ます(4th スートはゲームフォーシングとしているとしてですが) a)ではオープナーは3Cに対しては3Dとキュービッドするでしょう。しかしb)では3NTとスラムは否定するようなビッドをするでしょう。ここで重要なことは実際のハンドを想像するというかイメージすることなのです。

なお

c) ♠ Kxx ♥ - ♦ AKxxxx ♣ KQxx

のようなハンドでも7Cは有望です。このように具体的なハンドをイメージすることをしないで、ただ絵札点だけで考えていると、自分は15点でオープナーが何点かを考えることになります。a)ですと16点、c)ですと15点で、合わせて30点か31点ということになり、32点に達しないのでグランドスラムはおろかスモールスラムもルーズをしかねません。

このハンドは実際にあったハンドで、ビッドは1D - (1S)と進んできました。ここでは2Hとビッドするかダブルというか難しいところですが、パートナーズートのダイヤモンドがフィットしていないのでダブルの方が良さそうに感じます。(なぜなら2Hに対し

てオープナーが3Dとリビッドしてきたらあまりうれしくないですね。フィットしていないときはニュースートをビッドすることはできるだけ避けましょう)

オークションは

1D - (1S) - X - (2S)

3C - (P)

と進んできました。このときも考えることは邪魔が入らなかった場合と全く同じで、都合のよいハンドと都合の悪いハンドの両方を想像することです。そのどれかを探るためにはパスをさせないようなビッドを工夫することになります。この場合は3Sとキュービッドするしかありません。この意味は、まずパートナーには「3NTを目指していてストッパーがあるか」と聞いていると受け取ってもらってよいのです。しかしその後は4Cとサポートすることでスラムを考えているのだとパートナーに伝え直すことになります。たとえば

1D - (1S) - X - (2S)

3C - (P) - (3S) - (P)

3NT - (P) - 4C - (P)

と進んだとしましょう。a) c) のハンドなら4Dとキュービッドしてくれるでしょう。しかしb) のハンドなら4NTとネガティブなビッドになります。(このキュービッドの文法も慣れてほしいと思います：キュービッドすればポジティブレスポンス、4NTはネガティブレスポンスです) いずれにしろ基本はパートナーのハンドを具体的にイメージして見ることです。これはハイコントラクトになればなるほど重要であり、同時にしやすくなります。(ローコントラクトの場合はしづらくなりますが)

このエッセイ「余談」は2009年当センターが開設されたときからゲームに参加された方に配布していました。当初は不定期に発行されていましたが、途中から月1回、第3金曜日に開催される食事付きCCGの際に発行するようになりました。今までは印刷物を配布するだけでしたが、これは継続しますが、新たにHPにも掲載する予定です。アドレスは <http://machida.bc/> です。